

令和7年度

第3回海老名市総合教育会議

## 令和7年度第3回総合教育会議議事録

- 1 日 付 令和7年10月26日（日）
- 2 場 所 さくらい幼稚園
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 藤吉 ひとみ 教育委員 濱田 望  
教育委員 海野 望 教育委員 武井 哲也
- 4 事務局 教育部長 江下 裕隆 教育部次長 吉川 浩
- 教育部教育支援  
担当部長兼教育  
支援担当次長事  
務取扱兼教育支  
援課長事務取扱 麻生 仁 教育部参事兼教  
育総務課長 近藤 直樹
- 教育部参事兼学  
び支援課長 田中 歩
- 教育部参事兼就  
学支援課長兼指  
導主事 山田 圭 就学支援課健康  
給食係長 柳本 巖
- 教育部参事兼教  
育支援課教育支  
援担当課長兼教  
育支援センター  
所長 小菌 洋 就学支援課学校  
栄養技師 丹治 瑞夏
- 教育支援課主幹  
兼指導主事 豊山 花林 教育支援課副主  
幹兼指導主事 佐藤 英恵
- 5 書 記 教育総務課総務  
係長 小林 亮介 教育総務課主任  
主事 北 雄一
- 教育総務課副主  
幹 伊藤 景子 教育総務課主事 檀上 哲史
- 6 傍 聴 人 30名
- 7 開会時刻 午前10時00分
- 8 協議事項  
教育大綱の取組について  
(1) 魅力ある学校給食の実現  
(2) 教育支援体制の充実
- 9 外国語教育の充実（小学生による実演）
- 10 閉会時刻 午前11時53分

○**教育部次長** 皆様、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。

本日は、足元の悪い中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、司会を務めます海老名市教育委員会教育部次長の吉川と申します。よろしく願いいたします。

今年度は、民間保育園、幼稚園、学童保育クラブを会場としました開催をしております。今回は、さくらい幼稚園様の多大なるご協力によりまして、この会場をお借りして会議を開催することとなりました。後方にさくらい幼稚園の園長であります櫻井喜宣様がいらっしゃいます。ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

ここで、会議の開催に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。ご用意した資料は、A4の紙で本日の会議次第、ホチキス留めになっております2アップで印刷されました協議事項資料と海老名市外国語教育の充実の3点でございます。そのほかに海老名市フルインクルーシブ市民との対話の場のチラシもご用意しておりますので、ご確認をいただければと思います。よろしいでしょうか。

なお、協議事項の資料につきましては前方のスクリーンにも投影いたしますので、こちらでもご覧いただくことができます。

また、本会議全体を通しまして海老名市YouTubeチャンネルにてライブ配信をしておりますので、何とぞご了承いただければと思います。

それでは、会議に移らせていただきます。

次第の2、市長及び教育長からご挨拶申し上げます。

初めに、内野市長でございます。

○**内野市長** おはようございます。第3回の総合教育会議であります。会場はさくらい幼稚園様をお借りすることができました。今年度は民間保育園や幼稚園、学童保育クラブでやろうという形ですが、昨年度は企業、例えば、小田急電鉄株式会社の本社でも行いましたし、様々場所を変えて実施しております。なぜかという、総合教育会議という会議をやっているんだということを広めていきたいからです。意外と知らない市民の方が多くいらっしゃいまして、なぜかという、各市調べますと年1回しかやっていないところが多いわけでありまして、海老名市は4回実施しております。そういった面で様々な意見を聴いて、そして、傍聴の方もいらっしゃいますから、意見がある方の話も聴いてやっていきたいと思っております。櫻井さん、本当にありがとうございます。

幼稚園の所管は文部科学省であって、保育園は厚生労働省であります。海老名市が国より先行していることは、えびなこどもセンターに保育・幼稚園課と教育委員会が入って、いわゆる生まれたときからずっとえびなこどもセンターで1つのデータ、健康管理も全てそこでやろうという形で動いていることです。今、現実にそうなっております。そういった面で前と違って、生まれてから、保育園、幼稚園へ行ったお子さんがそのまま小学校、中学校へ行く。そこまではこどもセンターでやろうという形で考えております。そういった部分では、様々な点で教育委員会は神奈川県教育委員会と協定を結びまして、フルインクルーシブ教育をやろうとしています。これについても、やはり幼稚園、保育園の教育なくしてできませんので、そういった部分で今後も連携を深めていく形の中でやっていきたいと思っています。

今日は学校給食の話があります。昨日は、「食べるがつなぐ未来へのかけはしポスターコンクール」がありました。子どもたちの作品を見ると、子どもたちは笑顔で食べることを考えている。描いている人、お父さん、お母さん、食べている人、みんな笑顔なのです。食べる時、苦虫をかみ潰したような嫌な顔して食べる人はほとんどいないのではないかと思います。そういう人もいるとは思いますが、食べるのが楽しいということが一番いいことだと思っていますので、そういった面の教育の充実も一生懸命やっていきたいと思っています。

よろしくお願ひ申し上げます。

○教育部次長 伊藤教育長よろしくお願ひします。

○伊藤教育長 おはようございます。このような雨の中、来ていただいて、本当にありがとうございます。実を言うと、私の長男坊はさくらい幼稚園でお世話になりました。さくらい幼稚園は、私が決めたわけではないのですが、妻から保育園、幼稚園に行くならどのように決めるのと聞かれたので、単純に人が多いところにしようと言ったのです。私が思ったのは、その後、学校へ行くから、多いところで一緒に過ごしたほうがいいのかと思うだけなのです。

実を言うと、この夏、この幼稚園で、一日体験ということで先生たちが研修に来たのです。それで私も久しぶりにさくらい幼稚園に足を踏み入れてきたのです。そうしたらがらっと変わっていたのです。これはどうなってしまったのかと思うくらい。あの頃の園庭はただの広場でした。でも、それが本当に子どもの遊び場になっていたのです。よくよく考えたら、ああ、そうか、それは1つの方法だったが、あのときは小学校に入るための準備

期間のようにして、教室も、テーブルではなくて、椅子が並んでいるので、小学校と同じ並びだったのです。でも、その後、やはり学校も、幼稚園、保育園も、教育改革、要するに子どもたち一人一人をどのように大切するかということが1つのテーマになって、教育の中身が変わってきたのです。それで、私は私で学校教育の中でフルインクルーシブ教育といった、本当に一人一人を大切にするためにはどうしたらいいか。そのためには学校をどう変えなければいけないか、やってきましたが、ぱっと足を踏み入れたとき、さくらい幼稚園がそうになっていたのです。それで驚いてしまって、負けてはいられないと思いました。

そんなことはいいのですが、ただ、我々は教育に携わる者としては、子どもたち一人一人の自己実現と社会の一員として幸せに生きるために学校自体を変えなければいけなくて、それは、保育園、幼稚園も一緒に、後ろにさくらい保育園の園長がいますが、保育園は頑張っていますか？みんなで子どもたちのことを考えて、皆さん、市民の方々も子どもたちのためにはどのような教育がいいかということを考えて進めたいと思います。

そういう意味で今日は、テーマとしては、先ほど市長が言ったように給食と学校の教育支援体制のお話をさせていただきますので、ご意見いただきたいと思います。

今日はお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。よろしく願いいたします。

**○教育部次長** 続きまして、本日、ご協力をいただきました櫻井様にご挨拶を頂戴したいと思います。

**○櫻井園長** おはようございます。さくらい幼稚園の園長です。まず、何か体調がすぐれないな、寒いな、そのようなことがあったら、遠慮なく申し出てください。私のほうで調整します。あと聞こえづらい等もあったら、マイクの調整もしますので、お声がけいただきたいと思います。

市長からフルインクルーシブ教育というお話をいただいて、私たちも、そこはずっとかみしめつつ、子どもたちと何をしていかなければいけないのかといったときに、幼稚園教育要領の中に、共生社会を生き抜いていく子どもたちの基礎を培うというように書かれていて、それを私たちは、共生社会をこれから子どもたち一人一人が生き抜いていくための基礎、芽生えのバトンを小学校教育以上に学校につなげていかななくてはならないな、そこがおそらくフルインクルーシブ教育の基礎になっていくのではないかと思いながら、一人一人を大事にしながら幼稚園の教育を重ねているところです。また、教育長にも今たくさ

んのお褒めの言葉をいただき、とてもうれしいのですが、そこに甘んじないように、またこれからもやっていきたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

また、今日は小学校以上での取組を私たちも勉強させていただいて、明日以降の保育につなげていきたいなと思っています。

今日はどうぞよろしくお願いします。

**○教育部次長** 櫻井園長、ありがとうございました。

続きまして、次第の3の協議事項に移りたいと思います。本日の協議事項は2件でございます。進行につきましては、本会議の設置者でございます内野市長に議事をお願いしたいと思います。

内野市長、よろしくお願いいたします。

**○内野市長** それでは、協議事項は2つございます。しかしながら、4番目の外国語教育の充実で小学生による実演がありまして、11時から始めないと、50分程度かかるという話がありますので、1時間程度で2つの議題を協議していきたいと思いますので、委員の皆さん、ご協力をよろしくお願いいたしますと思います。

---

それでは、教育大綱の取組についてのうち(1)魅力ある学校給食の実現を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

**○健康給食係長** おはようございます。教育委員会就学支援課健康給食係の柳本と申します。よろしくお願いいたします。

本日は魅力ある学校給食の実現ということで、海老名市における学校給食の取組について、私と学校給食の献立作成や現場管理を行っております栄養士の丹治からご説明させていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速、初めに、海老名市の学校給食についてでございます。海老名市では昭和48年に学校給食センターを開設いたしまして、小中学校の完全給食が開始されました。人口増加などの理由によりまして中学校完全給食は中止となっておりますが、昨年の4月から新しい施設ができ、中学校給食が復活しました。海老名の子どもたちに9年間、完全給食を届けることができるようになりました。学校給食は成長期に必要な栄養を満たすことはもちろんですが、食育の役割もあります。学校給食を通しまして、元気で健康に過ごすために、いろいろな食べ物を食べるのが大切だということに気づいてもらいたいと思

っております。

続きまして、中学校完全給食の実施ということで、中学校給食が中止されてからは注文制の給食弁当、または弁当を持参する形式で牛乳のみを提供しておりました。中学生が必要な栄養を摂るための食を保障し、保護者負担を軽減するために、昨年4月9日から中学校給食が再開されました。小学校給食でおなじみの献立を引き継ぎつつ、中学生に合わせた献立を考えております。中学生は、体格や性別、また、運動量などによりまして食べる量の個人差が出る時期だと思っております。その中で、一人一人が元気で健康に過ごし、学校給食が楽しみになるように給食に携わる全員が協力しまして、おいしい給食を提供できるように努めております。

続きまして、献立の作成についてです。学校給食の献立は、文部科学省で定められました学校給食摂取基準を基にしまして、行事食や食文化、地場産物、季節の食材などを取り入れて作成しております。

次のページから、実際に提供している給食について丹治から説明させていただきます。

**○学校栄養技師** ここからは学校給食の写真を用いながら説明させていただきます。

こちらは学校給食の人気メニューとなっております。揚げパン、鶏肉の竜田揚げ、ジャージャー麺は、小学生にも、中学生にも人気なメニューとなっております。カレーライスにつきましては、小学校給食ではカボチャのペーストを使用し、中学校給食ではカレー粉を使用しまして、それぞれの味覚に合わせて食材や調味料を工夫しております。

学校給食では、魅力ある給食を目指すために、日常的な献立に加えまして、様々な特色のある給食を提供しております。まず写真の中央になりますが、今年、大阪で開催されました万博にちなみまして、大阪や関西に由来した献立をアレンジして提供しました。今年度、小学校給食では、おたのしみ給食としまして、年に3回、特別な給食を実施しております。こちら献立の詳細になりますが、左の手前のお皿がいなりずし、右の汁わんになりますが、はりはり鍋をアレンジしまして「はりはりうどん」として提供しました。写真中央奥のお皿になりますが、食物アレルギーに配慮し、米粉を使用したお好み焼きを提供いたしました。

また、おたのしみ給食としまして、11月にSDGs献立、環境負荷の少ない植物性の食材を使用した献立や、キュウリやキャベツ、ニンジンなど、地場産物を活用した給食を提供する予定となっております。また、昨年度の取組になりますが、中学校給食では、高校受験、中学校の卒業を控えた中学3年生に向けた献立としまして、全学年共通でカツカレ

ーライスを提供しました。また、3年生にはアイスクリームも提供いたしました。

次に参ります。写真の左側をご覧ください。こちらは昨年度、宮城県の白石市との姉妹都市提携30周年を記念いたしまして、姉妹都市給食を提供させていただきました。白石市の郷土料理である「おくずがけ」や「ずんだ餅」、また、同じく姉妹都市である北海道登別市にちなみまして、北海道の郷土料理の「ザンギ」を提供させていただきました。

写真中央になりますが、こちらは令和4年度から実施しております海老名市の学校給食献立コンテストのレシピ部門の優秀作品を学校給食に取り入れております。昨年度は家系スタミナ丼、海老名野菜と厚揚げの酢豚風いため、クリームソースペンネを学校給食で提供いたしました。

また、写真右側になりますが、行事食を提供しております。クリスマスやひな祭りのほかにも、今年度6月になりますが、歯と口の健康週間に合わせて、小学校ではふだん使っているものよりも太めに切ったゴボウを使用したカムカム沢煮椀、カムカムゼリー、中学校給食では角切りの豚肉を使用したポークカレーライス、カムカムゼリーを提供させていただきました。

次に、地場産物を使った献立になります。活用促進の取組といたしまして、食の創造館の栄養士と市内の農家が直接やり取りをするのではなく、市の農業支援センターに間に入っていただいて、調整役として地場産物の活用につなげています。昨年度は小中学校合わせて19品目の海老名で収穫されたお野菜や果物を給食に使用させていただきました。主なものとしては、キャベツ、大根、長ネギ、トマトなどがあります。地場産物を献立に取り入れた際には、献立名に海老名と入れたり、学校に配付する献立表などに農家のお名前を記載したりするなど、PRも積極的に行っております。また、神奈川県産のお野菜やお肉、果物も積極的に使用しています。

また、長期休業期間中には栄養士が農家訪問を行い、野菜を実際に栽培している様子を見学させていただき、取材を行っております。そちらの取材の結果なのですが、学校に配付する配付物や給食時間の放送資料などに取り入れ、児童生徒に伝えるようにしております。

次に、こちらが季節の食材を使った献立になります。1年の中でおいしく、栄養素が豊富、収穫量が多くなる旬の野菜や果物、魚を給食で積極的に取り入れております。今年度ですと、スイカや神奈川県産のメロンを提供いたしました。こちらがスイカとメロンになるのですが、食の創造館の調理員が児童生徒に合わせてカットして提供しております。ま

た、夏野菜カレーには海老名で収穫された長ナスを油で素揚げして、人気のカレーライスに取り入れました。

○健康給食係長 続いて、海老名市で行っている学校給食のPRということで、様々な形でPRをさせていただいております。Instagramでは、おたのしみ給食や地場産物、季節の食材を使った給食を紹介しております。また、食育をテーマとした食育のおたより「もぐもぐパクパク」をつくっております。年間を通して子どもたちが食に興味を持てるようにすること、自分の体や健康をどのようにつくっていくかなどを知る機会をつくることを目的に発行しております。また、ふだんは見るできない給食センターの調理、洗浄などの様子をプロモーション動画としまして海老名市公式YouTubeチャンネルで公開しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

続いて、食育活動の一環としまして、大谷小学校では総合的な学習の時間を活用させていただきまして、フードロスの削減について、自分たちができることを考えてもらいました。また、海西中学校では、給食の調理過程を知ることにより、給食や食に関する関心を高めるとともに、今の自分に合った給食の量を知り、給食を残さずに食べようとする意識を持ってもらうため、食事の重要性や心身の健康に視点を置いた授業を行いました。ほかにも、毎年、全13小学校の小学4年生を対象にいたしまして、朝ご飯の大切さや栄養について、クイズを交えながら栄養士による食育指導も行っております。

続いて、食物アレルギー対応食ということで、海老名市では、給食での食物アレルギー対応が必要な児童生徒の対応といたしまして、食物アレルギー面談を実施の上で、献立表の対応、弁当対応、乳と鶏卵の2つのアレルギーを有する児童生徒を対象とした食物アレルギー対応食の3種類の方法で対応しております。こちらは食物アレルギー対応食の実例といたしまして、ロールパンの代わりに米粉蒸しパンを提供しているところでございます。中学校給食につきましても、2学期からアレルギー対応食を開始させていただいております。

先ほども紹介させていただきましたが、学校給食献立コンテストになります。こちらも学校給食からフードロスを減らす取組の1つといたしまして令和4年度から実施しております。今年も絵画イラスト部門、レシピ等合わせまして総数で979点の応募をいただきました。レシピ部門の受賞作品につきましては、学校給食にアレンジいたしまして、今年度3学期に提供させていただく予定となっております。

最後に、学校給食費ということでご説明させていただきます。物価高騰によりまして、

食材費が高騰し続けていることから、学校給食の賄い材料費も高騰しております。その中で、安全・安心でおいしい給食の提供を維持するため、学校給食費をここで増額させていただいております。学校給食費の増額によりまして保護者の皆様の負担が増加しないように、増加分につきましては市が負担しております。現状1食当たり小学校で55円、中学校で80円を公費で負担しております。今後も海老名市の学校給食の基本理念でございます「えびなの子どもたち、ひとりひとりの『おいしい笑顔』のために」の下、子どもたちにとって魅力ある給食の提供に努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○内野市長 説明が終わりました。

それでは、何かご意見がございましたら、各委員、よろしくお願いいたします。

○濱田委員 ご説明ありがとうございます。大変すばらしい献立、あるいは工夫をされて、小学校、中学校の給食をこれからも進めていただけることを願います。

最後に学校給食費の問題を言っていたと思いますが、我々も非常に物価高騰に苦勞していることは十分理解しているのですが、やはり公費で負担をカバーし合いながら、保護者の皆様の負担をそのまま現状維持という形でやっけていまして、このまま、今のところメニューや栄養関係、献立について全て維持できているということでもよろしいでしょうか、お伺いします。

○健康給食係長 ご質問にお答えいたします。今回、9月議会において、食材費が高騰しているということで、給食費も増額させていただきまして、上がった分は公費で負担しております。その分だけ、今まで以上に給食の質と量が確保できる、維持するために補正予算を計上させていただきましたので、給食は質と量を落とさないように献立を組み立てて今年度はやらせていただいております。

○濱田委員 中学校の給食が始まって大変だと思いますが、これからも頑張ってください。どうもありがとうございます。

○内野市長 他にございますか。

○武井委員 丁寧な説明、ありがとうございます。私たちがいた頃とは全く給食の内容が違うなとすごく感じたのですが、1つの質問と1つの提案をさせていただきます。

まず、質問です。最近グルテンのことをよく言われる方がいるのですが、グルテンが腸壁にいたずらする、悪さをするとされていて、その辺はどういった考えなのかを教えてください。

もう1つは、私はイチゴ農家なのですが、1990年ぐらい、ある農薬が日本に入ってきたぐらいから、だんだん発達障がいが増えてきているのが分かってきて、それは、農業協同組合でも、ホームセンターでも売っている農薬なので、どこの野菜を買ってもおそろくかかっていると思うのです。それをしょうがなく食べてしまう現状もあるのですが、私なんかは自分でいろいろな野菜をつくれるので、特定の農薬をかけない野菜をつくって食べているのですが、市場には出回っているのに、それを出すデトックス作用のある食材を私は入れたほうがいいのかと思います。例えば、ヨウ素が入っている食材は比較的出しやすいです。解毒作用のある食材、例えば、ニンニクやターメリック等あるのですが、私は学校給食で一番助かっているのはカレーだと思っていて、カレーの中にはターメリックが入っていて解毒作用があるので、なるべく解毒作用のある食材の中に入れてもいいと思います。

ここにある学校給食摂取基準の中で収まるようなもの、例えばヨウ素だったら、一番多いのはみそとか、ワカメとか、そういうものですね。栄養士だったら多分よく分かっていると思うので、そういったものをなるべく入れてあげるといいのかなと思います、提案させていただきます。

**○学校栄養技師** ご意見とご質問をいただき、ありがとうございます。

1つ目はグルテンの質問についてなのですが、先ほど柳本からも説明がありましたが、学校給食については文部科学省が出しています学校給食摂取基準に基づいて提供しております。グルテンの部分は、この表にはないのですが、炭水化物に当たると思いますので、ジャガイモ等の炭水化物を多く含む野菜やお米、パンなどのバランスを考えて提供しておりますので、今後検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

続いての農薬についてなのですが、学校給食に使用している食材は、年に1回、農薬検査を行い、安全性を確認しております。ご提示いただいたヨウ素といった栄養素を含む食材についても給食のバランス、食材のバランスを見ながら適宜取り入れていきたいと思っております。ありがとうございます。

**○内野市長** 他にございますか。

**○藤吉委員** 丁寧なご説明、ありがとうございました。事前に資料を頂いていたのですが、白黒だったので、会場に来てフルカラーで、給食の写真を見て、見た目って大事だなと思いました。

私は小学校で働いていたのですが、ほとんどの子が毎日の給食が楽しみというところが

ありました。何かあって保健室に行ってしまった子に養護の先生が献立表を見せて、今日はこれが出るよ、ゼリーが出るよ、行ってみようかというような声かけをして教室に戻るよう促すようなことも見てきましたので、子どもたちにとっては、栄養面はもちろんなのですが、一日の中の給食はとても楽しい部分なので大事なところだと思います。これだけいろいろな工夫を凝らした献立を考えてくださっているので、子どもたちも大変楽しみにしているなと思っています。

中学校の給食は、最初、時間的なものが大丈夫なのかなと懸念もしたのですが、中学生は、配膳も、片づけるのもすごく早いんですね。ですから、食べる時間は十分確保できたのかなとは思いますが、昔、私が子どもの頃、中学2年のときは、すっからかんになるぐらい、底が見えたぐらいみんな食べていたのですが、やはり残量が増えてきたということもお聞きしました。今の小学校と中学校の残量調査というものもまだ実施されているかと思うのですが、こういった傾向があるか、もし分かれば教えていただきたいと思いません。

○**学校栄養技師** ご意見いただき、ありがとうございます。学校給食の材料についてなのですが、残量ということで、海老名市の公式のホームページに残滓量は公開しています。小中学校の給食の傾向を見ていますと、やはりカレーやジャージャー麺は人気の献立なので、丸缶がすっからかんになって返ってくるような状況ですが、お野菜や人気がないようなメニューですと、残滓量がどうしても多くなってしまいう現状にはあります。献立を工夫しながら、お子さんの好きな給食だけを取り入れるわけにはいかないの、バランスを考えながら、また様々な食体験ができるように、多くの食材を使って献立を今後も考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

○**内野市長** 今の傾向はそうなんだが、中学校は残滓が多いと議会でも言われて、びっくりしているんだが。

○**伊藤教育長** ご飯がですよ。

○**内野市長** 海老名は米飯が多いのですよ。5日間のうち4日間やっているよね。普通のところは米飯が少なく、パンが多いのです。なぜかというと、綾瀬はパンの残滓が多いから、ご飯だとすごく残滓が少ないということで、何しろ米飯を多くしようという形で5日間のうち4日間やっているのは、すごく特色がある。その部分は小学校と中学校でどういう違いがありますか。

○**学校栄養技師** ご飯については、小学校ですと、4日間のうち2日間は食の創造館でつ

くっているお米をまず提供しておりました、2日間は委託炊飯のものになっております。中学校給食は4日間、全て委託炊飯のものになっております。ご飯の残滓が多いというのは、先ほど市長もおっしゃられたように事実でありまして、丼物、カレーライス等、ルー、あんかけといった、なるべくご飯と一緒に食べられるような献立として残滓を減らすように工夫しております。

**○内野市長** 他にございますか。

**○海野委員** ご説明、ありがとうございます。すごくいろいろな工夫をして、子どもたちに興味を持ってもらえるようにしてくださっているんだなと思いました。うちの娘に、「あなた、好き嫌いとか、しているのではないの、せっかく給食を作ってくれているのに」と言ったら、「何を言っているの、お母さん、毎日完食だよ」と。毎日食べているんだなと思いました。

今、お野菜も天候不順等で手に入らなくなってしまうとかってあるのかなと思うので、そういったところをどのように調整していただいているのかなという疑問と、前にスイカが出たことがあって、大きいものが取り合いになるんだろうな、大きさにばらつきがあるんだろうなと思ったら、すごくきれいにそろって切ってたので、そういう隠れた努力もいろいろあるんだなと思いました。

これからもみんなが満足して食べられるおいしい、安全な給食を提供していただけるようお願いいたします。

**○学校栄養技師** 野菜については、月に1回行っております物資選定委員会で、価格等品質を考えながら契約する業者を決めております。今年度ですと、夏、とても暑かったので、お野菜が入りづらかったり、産地の変更などあったのですが、そちらは業者が柔軟に対応してくださり、給食に使用する野菜の量が減ってしまうことはありませんでした。また、スイカなのですが、本当に調理員がどうやってカットしたら、皆さんに同じサイズがいくようになるのか考えながら、とても工夫しながら提供しました。ありがとうございます。

**○内野市長** 栄養士もいらっしゃるから、私から質問していいですか。学校給食はこれから何を求めるのか。昔は、いわゆる戦後は食糧難で、食べるものがないと言われて、それで学校給食が始まった。その頃の海老名はまだ米作りの地域だったから、基本的には学校給食が始まったのは昭和40年代の後半なのです。小中学校一斉に始めたら、児童生徒がどんどん増えて、給食センターで賄い切れない。そのときに中学校の残滓が多かった。残

飯、ごみになるものが多いから、基本的にそこで弁当方式に切り替えたというのがあるのです。今は、基本的には中学校もセンター方式でやって、今こうなっているのですが、私が言わんとすることは、365日あるでしょう。3食でやると1000食を超えるわけです。そうすると、185食が学校給食なので16%ぐらいなのです。保護者の方が何を望んでいるかというと、私ははっきり言って中学校給食は判断をしてやりましたが、あの子どものアンケートは弁当がいいと答えた子どもたちが圧倒的に多かったのですよ。何でと聞いたら、給食を作ってくれば、お母さんの手間がない。では、その16%しか学校給食を食べていないのに、その16%に何を求めているのか。

いや、栄養士は栄養士の考え方があるが、保護者は何を望むかなのですよ。それとともに、児童生徒が何を望むかなのですよ。先ほど言った体験をさせたいとか、いろいろあるのですよ。だが、一番の主体は誰かという、児童生徒なのです。だから、私はよく言うのですが、残滓が残らないものをどんどん作ればいいではないかと言ったら、そうすると、栄養がおかしくなると。では、その栄養をどうやってカバーするかを考えて作るべきではないかなと思うわけです。だから、今までは学校給食そのものは、保護者のそういった要望があってやったんだが、主体は児童生徒だから、その辺は残滓が増えないようなメニューをどうやるか、質を高めるべきだと思う。

例えば、牛丼を作りますよね。和牛のいい牛丼を作ったらどうなってしまうか。うちの調理場で作ったら、溶けてしまう。そのときは、アメリカンビーフか、オーギービーフを混ぜないと駄目なのです。だから、吉野家はアメリカンビーフ、すき家はオーギービーフに分かれているのですよ。皆さん、自宅でやれば溶けないと言われるが、こちらはどんどん煮立ってしまうから溶けてしまうのです。輸入の食材が全部悪いということではなくて、もうそろそろ安全な輸入食材をある程度国が定めて、こちらも入れないといけません。今の状況だとトマトがすごい高いではないですか。ミニトマト1個と卵1個とどちらが高いかといえば、今はミニトマトのほうが高いのですよ。料理はジャガイモとニンジンとタマネギの三種類が一番必要ですが、今は全部高い。皆さん、主婦の方はそうだと思うが、全部高いでしょう。100円以下がない。今はもう100円以下の野菜は売っていない。私、1週間に1回以上はいろいろなスーパーマーケットに行きます。これだけ食材が高いと分かるのですよ。給食費が高いといけないから、公費を出す。そうすると、そこで工夫が必要だと思うのです。

安全なものをどうやって確保していくかがこれからの日本の課題ではないかと考えま

す。農家の人だって、これだけ温暖化になっていくと、米がどんどん北に移っているのですよ。食材もどんどん移っていくといった形の中で農業を考えると、食材の確保等、いろんなことを考えるが、そろそろ今までの固定観念だけではうまくいかないのではないかと思うので、その辺で栄養士さんは何を考えているのか教えてください。

○**学校栄養技師** 学校給食はもちろん児童生徒が食べるものでありまして、昼食なのですが、教育の一環でもあります。栄養もそうですし、食事のマナーであったり、そういうところも身につけられるのが給食だと思って私は提供しているので、お弁当を持ってきていただくというのは、昼食にはなるとは思うのですが、栄養価の面であったり、食事のマナーといった面での給食を今後も出していきたいなと私は思っています。

○**内野市長** 議会では財政の問題と安全な食材ということで、オーガニック食材を使ってくださいという話なんだが、オーガニック食材を使うと3倍ぐらいのお金がかかるのです。それは分かっておられると思うのですが、本当にこれは難しいなと思います。子どもたちの安全を確保するためにどういった食材を選んでやっていくか。この辺は、学校だけではなくて、家庭でもいろいろ考えて、一緒にやっていかないと足並みがそろわないのではないかなと思います。

先ほど武井委員が言われた本当に重要なものはありますね。農薬の関係もやはり考えていく時代でないかなと思いますので、どうか発信をしていただいて、学校給食の献立だけではなくて、家庭ではこういうものを注意して、夏場はこういうものをつくるようにという形で市場を見て推奨する等、いろいろなことを考えてやっていただきたいなと思います。

給食だけでは16%しかなく、あとの84%は家庭なので、その部分の発信力を高めていただきたいなと思います。

○**伊藤教育長** では、一言だけ。私はあえて給食をここに出しました。なぜかという、今ここで説明した栄養士は、海老名に就職して2年目なのです。これからの海老名の食を考える立場の人なので、ここに出て来てもらいました。これからの海老名の食を担います。1つあるのは、家庭と学校との違いは何かというと、みんなで食べるということなのです。同じ釜の飯とは言わないが、みんなで同じものを食べることは、子どもたちにとってはとても安心する場で、嫌いなものがあるのは、市長もそうだが、私も好き嫌いがすごいのです。だから、給食なんて本当に食べられません。

○**内野市長** 食べられない。

○伊藤教育長 でも、それでもみんなが一緒のもの、同じメニューを食べる時間が教育の中ではとても大事な時間なので、そういう意味で、丹治学校栄養技師に頑張ってもらいたいのです。

○内野市長 はっきり言って、私も給食で育った人間ではなくて、その頃、海老名の小中学校はなかったの。だが、教育長もそうなのですが、2人とも好き嫌いが多くて、学校のメニューを見たら、半分以上食べられない。教育長もそうだと思う。

○伊藤教育長 そうです。

○内野市長 それでもしっかり育っているのですよ。こうやって。皆さんから何かありますか。

○傍聴者 今日は栄養士が来てくれて、大変うれしく思います。

発達が本当にゆっくりな子もいますが、それ以上に一番多いのはアレルギーの子が大変多くなっています。教育長にも聞きたいし、教育委員の皆様にもお伺いしたいです。お母さんもいて、お父さんもいらっしゃると思います。そこには今、保育園とか幼稚園、そして小学校に通っているお父さんとお母さんがいます。今、市長も、教育長も、子どもたちの幸せ、アレルギー対応食に関してこのように違ったものを今は出しているのですね。皆さん、見てください、違ったものが出されているのです。

教育長は先ほど、みんなが同じものを食べる幸せを味わおう。私も本当にそう思います。ただ、あれは同じものですかというと、同じものではありません。そして今、小学校でアレルギーの子はどうしていますかというと、小学校は、職員室に行って、私の給食を下さいと言ってもらいに行かなければいけない。それは、皆さん、一緒ですか。もし自分の息子が、娘がアレルギーだった場合、みんなと同じものを食べられない。そして、みんなは配膳給食で配膳されているのに、私だけは違った。でも、それは絶対間違えてはいけなくて、食器が違う、食器の色が違う。これは同じ海老名市の子どものインクルーシブを目指す、フルインクルーシブとして本当に正しいのだろうかとは私はずごく問題提起をしたいです。実際自分のところでやってみようというところで、さくらい保育園は、小麦、卵、牛乳の三大アレルギーを全て除去したなかよし給食をやっています。でも、そういうことをやっているところに子どもたちは集まってくる。なぜかということ、お母さんたちは、やっぱりみんなと同じものを食べさせたいと思っているからです。市長が16%だと言っていた給食が、そういった対応をするだけで、もしかしたら20%、30%という形で増えていくのではないかなと思ったのです。

将来を担う海老名市だったら、ぜひその熱い思いを私はお聞かせ願いたいと思っていますし、ぜひうちの保育園に食べに来てほしいです。栄養素で言うなら、ホウレンソウではなくて、コマツナを使うのです。コマツナとホウレンソウは同じような見た目ですが、何十倍も栄養があるのですよ。でも、そのコマツナは、私が食べられない限り、子どもたちは絶対食べられないので、私が食べられるようなレシピにしてくださいと言ってオーダーして、何回も何回も直して、私も今ではコマツナが食べられるようになりました。

卵も、マヨネーズもマヨドレ。でも、それが日常生活になっていくと、マヨネーズがなくても、それをマヨネーズと感じられるようにみんなもなっていく。食の変化があるからこそ、そこにどう人員を登用していくかはすごく大切だと思いますので、ぜひ海老名市の質の高さを近隣に見せるためには、やはりアレルギーの除去食ではなくて、対応食にしていくべきなのではないかなと思います。いかがでしょうか。

○伊藤教育長 私は前もその意見を聞いたような気がするのですが、私は今、1日1万500人ぐらいの食を制度として進める中では、まだ海老名としては体制ができていないということで、ご提言として受け止め、その方向に向けて検討、栄養士たちと一緒に考えて、子どもたちのために前に進めてまいりたいと思います。

○傍聴者 今泉中学校の保護者です。いつもおいしい給食をありがとうございます。

年に1日あるか、ないかだと思うのですが、台風などで学校が止まってしまったときに、給食を廃棄するのにもお金がかかるという話を聞いたことがあるのですが、その実情と、今後、もしそういうことがあったときは、その廃棄するものを活用できるような考えがあたりでしたらお聞かせ願いたいと思います。お願いします。

○内野市長 廃棄はしていないよね。

○伊藤教育長 全部はしていない。

○学校栄養技師 ご質問、ありがとうございます。去年の2学期、台風がありまして、小中学校が臨時休業となった際には、食材はできるだけ翌日使用できるようにということで、青果類は翌日分の使用量、納品量を減らすことで対応しました。ですが、お肉やご飯は既に炊いてあったものなので廃棄にはなってしまったのですが、教育委員会で相談して、できるだけロスがないように動きました。

○健康給食係長 今後の活用というお話ですが、衛生面といったところも十分注意しないといけないこともありますので、今後そういったときにどういうことができるのかなというのを事前に共有して、検討していきたいと思います。

○内野市長 台風等による休校の判断は、教育委員会が集まって、6時頃に教育長が判断しているのです。市はそれを受けるのですが、外注しているところは、給食センターそのもので稼働してしまっているものもあるし、あるいは外注したものもありますから、そこら辺はどうしようもないと思いますが、できるだけ判断を早くしようとしています。

前の日にしたいのですが、前の日にすると晴れてしまう可能性もあるのです。これだけ異常気象だと判断は6時でないといけないので、その部分はどうしても6時になります。

あとは食材の契約の関係をしっかりと整理すれば問題ないなので、そういった部分ではできるだけ廃棄が出ないように徹底していきたいと思います。

では、栄養士さん、頑張ってください。私も応援しています。私、海老名のレタスを子どもたちに1人1個ずつ食べさせたいのです。1万個。それだけ農家があるのですよ。キャベツも。ところが、生野菜は駄目なのです。温野菜でないと。そこを何とかクリアするように考えてください。全部そろえますから。レタスのときに、半分を4人で食べようよって、むしゃむしゃ食べるような姿を見てみたいと思います。キャベツだって自分たちで千切りをばんばんして、たらふく、山のように食べるところを見てみたい、その部分はお金をかけてもいいと思いますので、そういったことを考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

---

それでは(2)教育支援体制の充実について、時間が押していますので簡単をお願いします。

○指導主事 教育支援課の豊山です。よろしくお願いいたします。

私からは教育支援体制の充実について、海老名市教育大綱5つの柱のうち2つの柱に関わる取組について報告します。1つ目は「えびなっこしあわせプラン」の推進における教育支援体制の充実について、2つ目は、包摂性の高い教育的・社会的支援の推進におけるフルインクルーシブ教育の推進についてです。

初めに、教育大綱の1つ目の柱であるえびなっこしあわせプラン「教育支援体制の充実」では、以下の3つを中心に進めています。1つ目は「えびなっこ支援シート」の活用及び支援の充実、2つ目は学校の包摂性を高めるための環境の整備と支援体制の充実、3つ目に学校支援チームの再構築になります。また、このことを協議していくために、教育支援体制づくり推進委員会を年3回開催し、作業部会を年2回実施しています。

ここで、中心となっている「えびなっこ支援シート」についてご説明します。

学校では、支援が必要な児童生徒に個別の教育支援計画と個別の指導計画の2つの計画を作成しています。少し長いスパンで支援の計画を立て、本人を中心に支援の方向を共有していくためのツールとして個別の教育支援計画と学習の具体的な計画や手だて、評価をしていく個別の指導計画の2つです。この2つの計画は、支援学級に在籍している児童生徒や通級指導教室に通級している児童生徒は必ず作成しています。また、通常の学級の児童生徒でも、必要に応じて作成することが可能です。海老名市では少し長いスパンで支援計画を立てる個別の教育支援計画をえびなっこ支援シートという形で作成しています。

えびなっこ支援シートは、先ほどご説明した支援体制づくり推進委員会と作業部会の中で現場の先生方とより使いやすい、分かりやすい形を考え作成してきました。令和6年度、昨年度から全校で作成しています。支援級や通級の児童生徒だけではなく、不登校傾向にある子や補助的な支援が必要な子、外国につながりがある子など、必要な支援を共有し、どの子も支援を受けられるようにしていくことが目的です。また、本人が、将来、私はこういった支援があれば安心して過ごせるといった合理的配慮の手がかりとしても活用できると考えています。通常の学級に在籍している児童生徒も少しずつ作成数が増えてきています。多くの児童生徒はえびなっこ支援シートを作成し、活用していくことで、どの子も安心して過ごせる学校になっていくのではないかと考えています。

また、教育支援体制づくり推進委員会の作業部会では、不登校傾向、教室に入りにくい児童生徒の居場所として設置しているスペシャルサポートルーム・心の教室について課題を協議したり、情報を共有したりしました。どの学校も環境設定にこだわり、リラックスして過ごせる雰囲気づくりや集中して学習に取り組める個別スペースなどの取組を行っています。この部会で話し合われたスペシャルサポートルーム・心の教室の指導で、大切にしたい視点のまとめや19校のスペシャルサポートルーム・心の教室の状況を冊子にし、全校で共有しました。今年度は各校5万円の予算をつけ、必要な環境の整備を進めています。また、スペシャルサポートルーム支援員について、今年度より全校6時間配置にするなど、さらに整備を進めてまいります。

次に、教育大綱のもう1つの柱である包摂性の高い教育的・社会的支援の推進におけるフルインクルーシブ教育の推進についてです。昨年度末に公表させていただきました5年間の取組計画の中のB、みんなで支えるの校内支援体制の整備に関して補足して説明させていただきます。

1つ目は、⑦の学校をホームにする研究（学校）についてです。フルインクルーシブ教育を推進していくために、学級が全ての子のホームになっていくことが大切であると考えています。これは全ての子が学級に所属し、必要なときに必要な支援を受けられるようなイメージです。そして、そのために、様々なリソースを充実していくこと、ホームとなる学級の在り方について再考していく、この2つの視点を常に持ちながら進めていくことが重要であると考えています。

もう1つは、⑥教育支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実（学校）についてです。今までも学校には教育相談コーディネーターがいましたが、海老名市では、支援の対象を全ての子とし、名称を教育支援コーディネーターに変更しました。コーディネーターをキーパーソンとして、学校全体で全ての子が安心して過ごせる学校づくりを進めてまいります。

次に、取組計画にもある対話の場の中間報告についてです。現在保護者との対話の場を19校中10校で実施しました。児童生徒を対象としたフルインクルーシブ教育全校朝会についても19校中9校で実施しています。7月にはえびな支援学校の教職員との対話の場、10月にはえびな支援学校に在籍している児童生徒の保護者を対象とした対話の場を実施しました。参加者からは多岐にわたるご意見をいただいております。今年度末にはまとめ、報告していきたいと考えております。

次に、令和7年度インクルーシブ教育推進事業に係る予算です。事業費の総額は1億9337万5000円です。費用の内訳は人件費で1億7931万円、これは市の会計年度任用職員の報酬費用です。市では、補助指導員、介助員、看護介助員、日本語指導学級講師、言語聴覚士、スペシャルサポートルーム支援員をこちらの事業費から支払っています。消耗品、備品購入などに関する費用で876万1000円あります。そのほかの費用530万4000円は、日本語が難しい保護者への通訳、翻訳の謝礼や会計年度任用職員等の旅費、健康診断の費用などです。市では、来年度も同等の予算要求を行い、継続してフルインクルーシブ教育の推進を図りたいと思います。

最後に、宣伝になりますが、市民向け「対話の場」を12月6日（土）海老名市役所で、10月28日から11月28日まではメタバース空間での「対話の場」を計画しています。詳細につきましては、海老名市教育委員会のホームページをご覧ください。ぜひご参加いただくと幸いです。

私からは以上になります。ありがとうございました。

○内野市長 すみません、時間が押してしまっ。委員の皆さん、ございますか。

○濱田委員 1点だけ。対話のところ、今19校中9校あるいは10校というふうに進めていらっしゃいますが、今後の予定はどうか、あるいは近いうちに支援学校との対話が終わるのかだけ教えてください。

○指導主事 「対話の場」は19校を今年度中に回る予定です。全校朝会につきましても19校全て回って、実施する予定になっております。

○内野市長 他にございますか。

○藤吉委員 お時間がないところ、申し訳ないのですが、えびな支援学校との対話の場を7月になさって、10月に保護者対象がありますが、支援学校の保護者の方からどのようなご意見があったのか、もし分かれば教えていただきたいと思います。

○指導主事 えびな支援学校での保護者との対話の場ですが、参加人数はそんなに多くなくて、5名ほどだったのですが、海老名市内、市外からも参加いただいております。「学校の選択について、地域の学校が専門性を向上すれば、もっと地域の学校を選ぶ方が増えるのではないか」、「学校での経験・体験の中で、居住地交流などで小学校で参加して、すごくいい経験をした」、「給食が配慮食だったので、そのことが理由でなかなか地域の学校を選べなかった」などといったご意見等がありましたが、海老名市のフルインクルーシブ教育にもすごく期待してくださる方が多かったかなとは思っております。

○内野市長 私、予算編成権を持っているので1つだけ。幾らかかるんだという問題もやはりあるのです。神奈川県が補助金をちゃんと出してくれればいいのですが、不十分な点もある。だから、今ではなくて、令和10年まで続いて、今後もずっとあるのですが、その辺は財務と教育委員会で具体的に話をしておいてください。そうしないと、裏づけがないと空論で終わってしまうので、人の問題とかあるので、どうしても人件費はかかると私は思っています。私は、保護者の方は不安が多いと思うのです。障がい者と健常者が一緒になったらどうなんだとか。その親御さんは授業ができないのではないかとか、いろいろな話が出ているのです。だが、やはり共生社会としてフルインクルーシブを目指すということは、1つの大義としては私は市長としてもいいことだと思っておりますので、その部分では裏づけで、しっかりとした予算を組んでやっていきたいと思うので、その辺は財務とやっていただきたいなと思います。よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 今、市長から財政的裏づけが取れるというお話をいただきました。ありがとうございます。

○内野市長 違う違う、話してくださいということです。

○伊藤教育長 フルインクルーシブとあるのですが、実を言うと、もともとの学校のあるべき姿を追求するということですので、そういう意味で言うと、全国の小中学校が何かの障害とか、何かの支障があって、学校教育がうまくいかない。でも、それを解決するのは、1個1個の事案も必要なのですが、本当にフルインクルーシブということで、学校が全ての子を受け入れられるような学校づくりをすることが解決の方法なので、今、全国いろいろなところから海老名はこのような取組をしているということで、視察等、いろいろ来ていただいています。でも、その方向は子どもたちが過ごす学校を変えていくということが実際の「みそ」ですので、そういう意味で学校を変えていくというか、子どもたちが安心して、楽しく、みんなが集えるような学校づくりをこれからも進めてまいりたいと思います。市長、よろしく申し上げます。

○内野市長 今回、体育館の空調が令和7年度で全部終わるのです。この間も今泉小学校の和田校長からお礼を言われたのですが、私は、はっきり言って、神奈川県内というか、全国の体育館が全部空調だと思ったら、海老名と厚木だけがどんどん先行していて、座間なんか何もやっていないのです。秦野は1校だけモデルでやって、今焦って、みんなそれぞれこの異常気象で考えている。これで空調が終わるから、来年の卒業式は寒い中でやらなくて済むなと思います。中学校は特に寒くて、私も子どもがいるから、何でこんな寒いのかな、文化会館でもやればいいではないかという話を何回もしているのですが、学校は体育館でやりたい。今後そういった部分で環境はよくしていきたいのですが、お金がかかるので全部のお金を言いますと、19校の体育館を全部直したら23億円かかります。国から来たお金は3億円しかありません。20億円は市の持ち出しです。海老名はそういう段階にある。そういった部分で今、学校をどうするかという問題がすごく話題になりまして、統廃合等、いろいろ教育委員会が考えているのですが、それを私どもがどうやっていこうか。だから、海老名中学校も早めに移転しよう。早めに移転しないと、土地が高くなるので、お金がなくなったとき、できないので、早めにやろうねという話で、今年度中に海老名中学校の用地はここにしよう決めていこうと考えていますから、早め早めの手を打っていないと、いつまでたっても海老名は発展するわけではなくて、人口もあと10年後には減っていきますし、減るということは税収も減ることになりますから、そういった部分を考えながら早めにやっていきたいと思います。

しかしながら、こういったソフト面についてもやらざるを得ないと思っていますので、

全額は認められないかもしれないが、要望というか、そういう枠の調整はしてほしいなと思います。

皆さんから今の関連で聞きたいことはありますか。

では、司会は吉川教育部次長に戻します。

○教育部次長 内野市長、議事進行をありがとうございました。

以上で次第の3、協議事項を終了させていただきます。

この後、海老名小学校の児童によります外国語教育の充実（小学生による実演）の発表を行います。少し準備をさせていただきますので、10分程休憩とさせていただきます。正面の時計で11時20分から再開したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、休憩いたします。

（ 休 憩 ）

---

#### （ 4 外国語教育の充実（小学生による実演） ）

---

これをもちまして、次第の4「外国語教育の充実及び小学生による実演」を終了いたします。海老名小学校児童のみなさまありがとうございました。以上で、本日予定していた内容は終了となりますが、ここで、次回のご案内をさせていただきます。次回は2月に学童保育クラブでの開催を予定しております。詳細等が決まりましたら、市ホームページやチラシ等でお知らせいたしますので、多くの皆様の傍聴をお待ちしております。

それでは、以上を持ちまして、令和7年度第3回海老名市総合教育会議を閉会といたします。長時間にわたり、誠にありがとうございました。

また、さくらい幼稚園 園長 櫻井 喜宣様ご協力を頂き、ありがとうございました。どうぞ皆様、お忘れ物なくお気を付けて、お帰り下さい。